

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 住吉区
学校名 山之内小学校
学校長名 下川路 深志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立山之内小学校では、第6学年 85名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

山之内小学校の無解答率は全ての教科で大阪市や全国平均より低いという特徴がある。これは、児童が粘り強く解答を試みていることを示唆している。教科別の課題として、国語では「情報の扱い方に関する事項」等の領域、算数では「測定」等の領域、理科では「エネルギー」等の領域に課題が見られた。一方、強みとしては、国語の「読むこと」の領域の正答率が全国平均を上回っている。児童への質問調査では、「算数の勉強は得意ですか」という問い合わせに「当てはまる」と回答した児童の割合が、全国や大阪市よりも顕著に高いという結果であった。全体として、山之内小学校の児童は高い学習意欲を持っている一方で、特定の領域に課題を抱えていることが明らかになった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

国語

本校の国語の調査結果を見ると、平均正答率は63%で、大阪市や全国平均を下回っているが、無解答率は0.7%と低く、児童が最後まで問題に取り組む姿勢が見られる。内容別に見ると「言葉の特徴や使い方」と「我が国の言語文化」の正答率は全国平均とほぼ同等だが「情報の扱い方」の正答率は47.2%と顕著に低いことが課題である。領域別では「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均を下回る一方で「読むこと」の正答率は58.3%と、大阪市や全国平均を上回っており、この領域が強みと言える。

算数

本領域別の正答率を見ると、「数と計算」および「データの活用」の分野では、正答率が全国平均とほぼ同等である一方で、「図形」「測定」「変化と関係」の領域では、大阪市や全国平均を下回っており、特に「測定」の正答率は47.2%と、大阪市(54.9%)や全国(54.8%)と比べて大きな差が見られる。算数全体の平均正答率は55%で、大阪市や全国平均の58%を下回っている。しかし、無解答率は0.6%と低く、大阪市(3.3%)や全国(3.6%)と比較しても、児童が粘り強く問題に取り組んでいることがわかる。

理科

理科の調査結果は、平均正答率が55%で、大阪市とほぼ同じであった。先の2教科同様、無解答率が0.5%と非常に低かった。これは大阪市の3.0%や全国の2.8%と比較しても顕著であり、児童が最後まで問題を解こうと努力している姿勢を示している。領域別の正答率を見ると、課題は「エネルギー」を柱とする領域にあり、正答率は41.3%で、大阪市(42.7%)や全国(46.7%)と差が見られた。一方で、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域の正答率は、大阪市とはほぼ同等の結果であった。

質問調査より

児童への質問調査では、「先生が自分の良いところや進歩したところを伝えてくれる」と回答した児童の割合は31.3%で、全国平均を上回っている。「うまくできていないところや改善点を教えてくれる」と回答した児童の割合は30.0%で、大阪市や全国平均と比較して同等であった。「算数の勉強は得意ですか」という問い合わせに対する「当てはまる」と回答した児童の割合は43.8%で、大阪市(32.3%)や全国(31.2%)と比べて非常に高い結果となった。これは、児童の算数に対する学習意欲や自信が高いことを示している。

今後の取組(アクションプラン)

国語の「情報の扱い方」と「書くこと」の力の向上に取り組む。授業で情報を選び、整理して自分の意見を述べたり、意見交換をしたりする機会を増やす。
算数の「測定」と「変化と関係」の領域における正答率を上げるために、実験や観察を通じて感覚的な理解を深めることで、実際の問題解決能力を高めよう。

児童の力をより多く發揮させ、児童の個々の機会を最大限に活用することにより、児童の表現力を養う。算数の「図形」や「測定」といった苦手分野の克服に焦点を当てる。児童の高い学習意欲や自信を活かしつつ、問題の解き方だけでなく、考え方を筋道立てて説明させる授業を積極的に取り入れる。また、全教科を通じて児童一人一人の状況に応じた指導を充実させる。教員が児童の学習のつまずきを把握し、具体的な改善策を個別に伝える機会を増やすことで、更なる学力向上をめざす。これらの取り組みは、「学力向上支援チーム事業」や「各ブロック学力推進事業」などの大阪市の施策とも連携し、効果的に進めていく。